

産業の動向

エネルギー多消費産業の製品輸入増、日本は化学に集中

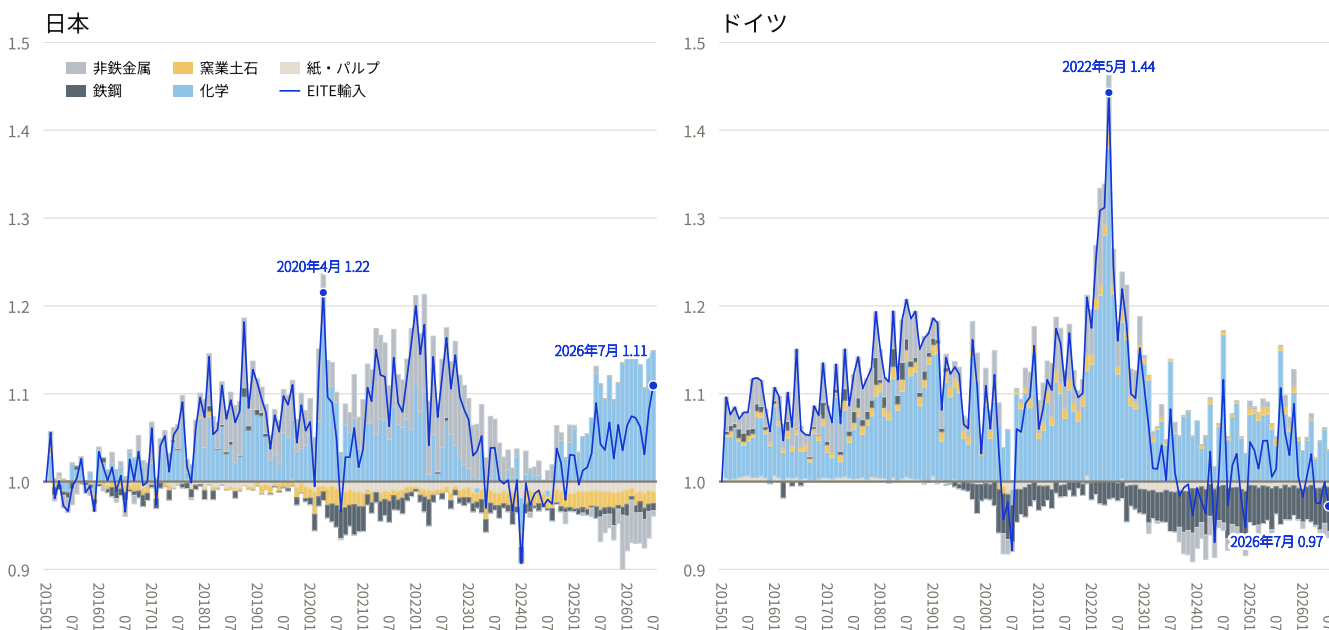
EM2604では、エネルギー多消費（EITE）製造業の製品輸入が日本で増加する一方、ドイツでは減少するという分岐を示した。さらにEM2612は、この日独差がそれ以外の製造業（Non-EITE）にはみられず、EITEに特徴的であることを示している。EITE製品の輸入指数を部門別に分解すると、日本では2024年以降の上昇がほぼ化学製品によってもたらされている。鉄鋼、非鉄金属、窯業・土石などはマイナスに寄与しており、化学の増加はホルムズ危機以前から確認される。ドイツでも化学はプラス寄与を示すものの、他部門の減少がこれを上回り、EITE輸入指数は2015年1月の水準を下回っている。ドイツの輸入減少には需要の弱さも影響している可能性がある一方、日本では国内生産が低下するなかで化学製品の輸入が増加しており、国内供給から輸入品への代替がより明瞭に表れている。

野村浩二・稲場翔（慶應義塾大学産業研究所）

2026年10月12日

日独とも化学がプラス寄与、日本ではEITE輸入増をほぼ単独で牽引

2015年1月-2026年7月におけるEITE輸入指数の寄与度分解（日本・ドイツ）



エネルギーモニター | EM2613 慶應義塾大学産業研究所

エネルギーモニターについて

エネルギーモニター（Energy Monitor: EM）は、主要国のエネルギーコスト・需給および産業の動向を紹介するニュースレターです。分析は、エネルギーコスト・モニタリング（Energy Cost Monitoring: ECM）が毎月公表するECM Database、およびその基礎資料となる国内外の公的統計に基づきます。掲載する各指標は、基礎データの更新・拡充や推計方法の改善に伴い、今後改訂される場合があります。

リンク

[エネルギーモニター](#)[ECM Japan](#)[ECM Dashboard](#)

エネルギーモニターのバックナンバーおよびニュースレター配信の登録は専用サイト、ECM各種指標の国内動向はECM Japan、国際比較はECM Dashboardをご覧ください。